

第40回

うつのみやこども賞だより

令和5年度 9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ぼくが選ぶぼくのいる場所』

吉富 多美 / 作 (金の星社)



～読んだ本の感想より～

- 相談する人がいなくてつらかったと思います。日本にもこのような人がいることが分かったので、助けてあげたいと思いました。
- ゆう成はつむぎがママと手をつないでいたことをバカにしていたけど、信二先生のおかげで仲間はずれにされないでよかったと思った。
- つむぎは暴力などをふるわれ母も酒などをずっと飲んでいて悲しかったはずなのにずっとがまんしていたのはすごいなと思った。
- モンスターがお母さんの病室に現われたときに、主人公は立ち向かっていたので、勇気があってすごいと思いました。
- お母さんがお酒を飲みすぎてつむぎも大変な時、つむぎを助けている、春子さん、タロウさん他にいる人達も、優しい人ばかりで、つむぎも安心できたのかなと思いました。
- お母さんのことを一人で守らなければという環境下でたえた主人公はすごいと思った。

令和6年2月11日

読めは
愉快だ
宇都宮

宇都宮市立図書館

UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

『ふたりのラブソディー』北 ふうこ / 作 (文研出版)

- あずさの母が「一緒に来ない？」と誘ったが、「うちはゴン太と一緒にいる」と決意したのがかっこいいと思った。
- 「将来は好きなことをすればいい」という、ゴン太の言葉が印象にのこりました。
- あずさとゴン太二人の親子のきずなはすごいなと思った。面白かった。
- あずさは最初、お母さんに捨てられたと思っていたけど、お母さんはあずさのことを大事に思っていることが分かってホッとしました。
- 友達に気持ちを伝えたり、親に自分の気持ちを伝えられる場面がいいと思った。

『夏に、ネコをさがして』西田 俊也 / 作 (徳間書店)

- 死や老人についてとても考えさせられる本だった。
- テンを探していくと、亡くなったなつばあとの思い出や戦争のことなどのこと分かってきて、ほうけんみたいでいいなと思いました。
- 私も家の近くでねこを探してみたくなった。いなくなるのが嫌だから生き物を飼えないのは、分かると思った。
- ネコを探していた佳斗が、蘭に出会ったおかげでだんだんと成長していくのがおもしろかった。また、最後にテンちゃんが見つかったと思った。

『アゲイン』あんず ゆき / 作 (フレーベル館)

- 最後、二人が会えたのが、さすが！と思いました。私もこんな友だちを作りたいです。
- 子ども食堂は、色々な人が行っていて、子どもだけでも入れるので、とてもよいところだと思いました。
- 八神さんとケンカして、どうなるのかと思ったら、転校してしまうときいて、おにぎりをわたしていいなと思った。
- 自分の友達にもカンナのような子供がいるかも、ということみんなにしてほしいと思った。